

# 不活化ポリオワクチンを受けられる方へ

当院で不活化ポリオワクチンを受けられる方にご確認頂きたい点を下記にまとめてあります。この説明を読まれてからの接種をお願いしておりますので、何かご不明な点があれば、接種前に看護師もしくは担当医にお気軽にお聞き下さい。

## 【ポリオの流行状況】

・ポリオは日本では流行していませんが、パキスタン、アフガニスタン、インド、ナイジェリアなどでは流行しており、そのような国々からウイルスが入ってきて、日本で感染する可能性はゼロではありません。

## 【不活化ポリオワクチンの目的とメリット】

・日本もしくは諸外国でポリオに感染することを予防します。  
・生ポリオワクチンでは、ワクチンによる副作用でポリオに感染する可能性が否定できませんが、不活化ポリオワクチンでは、そのような心配がないとされています。

## 【不活化ポリオワクチンの副反応】

・注射に伴う痛みや副反応（アナフィラキシー、発赤・腫れ、神経損傷など）の可能性があります。  
・抗生剤のネオマイシン、ストレプトマイシン、ポリミキシンBでアナフィラキシーを起こした場合は、接種できないので、何か身体に合わないお薬がある場合は必ず教えて下さい。

## 【不活化ポリオワクチンの接種スケジュール】

・一般的には、3回接種することで免疫がつくと考えられているので、当院では下記のような接種スケジュールをお勧めしております。

### 【経口生ワクチンを受けていない方】

1回目：生後2ヶ月 または 任意の時期

2回目：1回目の8週間後

3回目：2回目の6～12ヵ月後→生後1歳6ヶ月までに接種が望ましい

4回目：4～6歳→小学校入学までに接種が望ましい

→この場合、経口生ワクチンを接種する必要はありません

### 【経口生ワクチンを1回受けた方】

1回目：生ワクチン接種から2ヶ月以上経過した任意の時期

2回目：1回目の8週間後

3回目：4～6歳 （生ワクチンとあわせて 計4回）

→この場合、2回目の経口生ワクチンを接種する必要はありません

裏面に続きます

## 【他のワクチンとの接種や同時接種について】

・不活化ワクチンである3種混合、プレベナー、アクトヒブと同日に接種することは理論的には可能ですが、これらのワクチンによる副反応が出た場合の救済制度が明確に示されていない現状では、当院では同時接種をお勧め致しません。

・他のワクチンを接種する場合には、7日以上の間隔を空けて接種をして下さい。

## 【副反応などに対する救済制度について】

・当院では「輸入ワクチン副作用補償制度」に準じて対応する予定です。詳細は別紙をご参照下さい。

大和クリニック 院長 浜野 淳